

統計研修講義計画書

研修課程	統計基本課程 統計利用の基本	講義科目	地域経済と統計	講義時間	3コマ
講師	菊地 進 立教大学名誉教授				

※1コマ70分

講義のねらい

本講義のねらいは、地方統計活動の現状を踏まえ今後のあり方を考えることである。地方行政においては、活性化プログラム作りと事業評価・行政評価の動きが進められてきている。これはEBPMの推進として強調され、統計の力がますます大事になってきている。全員統計力の時代といっても過言ではない。いま求められるのは統計の利活用および統計調査、実態調査の力である。

ただし、地方における調査は、けっして機械的な調査論で片づくものではない。このことを地域での企業調査を例に考えてみることにする。

指導項目と内容

指導項目	内 容
1. バブル崩壊後の日本経済	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本経済の基礎条件の変化 ・ 雇用と企業の変容
2. 求められる地域経済の活性化	<ul style="list-style-type: none"> ・ 人口減少下の地域課題 ・ 地域経済の実態把握
3. 政策形成と統計情報	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点目標の明確化と政策方向 ・ 政策の策定・遂行・評価と統計
4. 統計改革と地方統計	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方統計セクションの課題 ・ 全員統計力への意識変化
5. 利活用と活性化の方向	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計利活用を巡る庁内連携 ・ 個別部署で展開される統計利用
6. 地方創生と地域産業振興	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の事業所・企業の息吹と課題を捉える ・ 振興計画の策定と推進における統計の役割
7. 身につけるべき統計力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本となる記述統計学の力 ・ E-Stat の活用と独自調査
8. 一步踏み出す統計活動	<ul style="list-style-type: none"> ・ 統計活用のための庁内連携・庁外連携 ・ 支えとなる調査力、データ蓄積意欲
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地方統計活動と産官学の連携

講義形態 指導方法	資料配布とパワーポイント使用による講義
受講に必要な 基礎知識等	特になし